

「白川文字学」の楽しさを発信！

主体的な漢字学習を目指した授業づくり



福井県 南越前町立南条小学校 山内 朋江氏

この度は、最優秀賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。

私は、平成22年度から「白川文字学を活かした漢字学習」の実践に取り組んでまいりました。白川静博士の「白川文字学」に出合って、漢字の成り立ちのおもしろさに感銘を受けました。そして、それまでの漢字学習と異なり、漢字の成り立ちに着目した「白川文字学」は、児童が今まで以上に興味・関心をもって取り組み、漢字に対する理解を深めることができるものであると確信しました。今回、このような賞をいただきましたのも、白川文字学に関していろいろな学びの機会を与えてくださったこと、諸先生方との出会い、そして、好奇心旺盛な子どもたちとの出会いのおかげだと思っています。それらに感謝しながら、今後も、真摯に実践を積み重ねていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

1 目的・ねらい

- (1) 主体的な漢字学習を目指した授業づくり
- (2) 「白川文字学」の楽しさの発信

2 実践例

実践1 主体的な漢字学習を目指した授業づくり・・・児童への発信

福井県の副読本「白川静博士に学ぶ楽しい漢字学習」を活用した1年生から6年生までの取り組み。常に、「聴く（いろいろな人の話・考えを）」「つなぐ（友達同士・学習対象物と）」「もどす（児童に・学習対象物に）」を意識して、活動の仕方（アクティブな学習形態・場所）や教具の提示の仕方、発問・投げかけを工夫するように心がけた。それぞれの授業の「Ⅰ 導入」「Ⅱ 展開」「Ⅲ 終末」の中に、いろいろな要素を取り入れ、児童が主体的に学べるようにした。



実践2 中学校における出前授業（小中連携交流授業）・・・他校の生徒・教員への発信

校区の中学校1年生のクラスで、「白川文字学入門」と題して、小学1年生・2年生の内容から授業を行った。担任だけでなく、他の先生方にも参観していただいた。中学生にとって、扱った漢字は簡単な物であるが、生徒は、古代文字が生まれた背景、古代文字と漢字との関係等を知り、白川文字学の奥深さに感じ入っていた。

実践3 他地域における研修会（南越地区研究指定校）・・・校外の教員への発信

白川文字学研究指定校で、研究に先立ち研修会を行うということで、その講師を務めることになった。説明を入れながら模擬授業、その後質疑応答という形で行った。今までに授業で使った教具・ワークシート・指導案なども提示し、具体的に理解してもらうことができた。

3 実践の成果

- (1) 主体的な漢字学習を目指した授業づくり

- 教材・教具の利用の仕方を工夫
- 活動の仕方を工夫
- 教師の投げかけ



児童を主体的な学びへと導き、次につなげることができた。



- (2) 「白川文字学」の楽しさの発信

- ・持ち上がりの学級で2年間の継続した取り組み → 児童の漢字学習への意欲の高まり
- ・校外の生徒・教員に向けて公開授業・模擬授業 → 具体的にアプローチすることで広がる